

1. 科目名 (単位 数)	薬理学概説 (薬物乱用防止を含む) (2 単位)	3. 科目番号	EDHE2319						
2. 授業担当教員	飯島 久香		PSMP2305						
4. 授業形態	講義、ディスカッション、ならびに課題発表	5. 開講学期	秋期						
6. 履修条件・ 他科目との関係									
7. 講義概要	<p>近年、医学の発展に伴って、多くの新しい医薬品が開発されてきた。それらの薬の効果や副作用は、人によって異なることも明らかになってきた。この授業では、</p> <ul style="list-style-type: none"> ●薬の有効性と毒性の発現の関係、薬の吸収・分布・代謝・排泄の作用機構等について理解する。 ●薬物乱用問題は社会秩序の根幹に関わる重大な問題である。アルコール、ニコチン、カフェインを含む依存性薬物 (覚せい剤・コカイン、麻薬性鎮痛薬、有機溶剤、鎮静催眠薬、大麻、幻覚薬、危険ドラッグなど) の特徴、および薬物乱用に起因する医学的・社会的弊害について学ぶ。 ●薬物の誤用、悪用の問題、サプリメントの有効性の真偽について学ぶ。 								
8. 学習目標	<p>以下について学び、理解を深め、説明できるようになることを学習目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 薬の有効性と毒性 (副作用) の発現の関係を学ぶ。 2. 薬の吸収・分布・代謝・排泄の作用機序について学ぶ。 3. 薬の管理、関連法規について学ぶ。 4. 代表的な疾病と治療薬について学ぶ。 5. 薬物乱用、悪用、誤用の防止について考え、理解を深める。 6. サプリメントの使用の是非について考え、理解を深める。 								
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 薬物関連の最新情報 (効果、副作用、新薬情報など) を集め、レポートを提出、提出時期は授業のなかで発表。 2. 授業ごとにまとめたレポートを提出する (用紙は授業の開始前に配布) 								
10. 教科書・参考 書・教材	<p>【教科書】 吉岡充弘・泉剛 (著) 『薬理学：疾病のなりたちと回復の促進 [3]』医学書院。</p> <p>【参考書】 栗原久 (著) 『No No Drugs! 心と身体と薬物乱用』東京法令出版。</p> <p>栗原久 (監修) 『Stop Drug! -薬物乱用を防止するために-』東京法令出版。</p> <p>東京福祉大学 (編) 『教職科目要説 (中等教育編)』ミネルヴァ書房。</p>								
11. 成績評価の規準 と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 用量-効果相関を基に、人体と化学物質 (薬物) との相互関連について理解しているか。 2. 学校現場、家庭で使用している医薬品の作用について理解しているか。 3. 薬物乱用の概念を理解し、乱用防止策のビジョンを持てるか。 <p>○評定の方法</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">1. 授業への積極的参加 (授業態度、発言)</td> <td style="text-align: right;">30%</td> </tr> <tr> <td>2. 課題レポート・発表</td> <td style="text-align: right;">30%</td> </tr> <tr> <td>3. 期末試験</td> <td style="text-align: right;">40%</td> </tr> </table>			1. 授業への積極的参加 (授業態度、発言)	30%	2. 課題レポート・発表	30%	3. 期末試験	40%
1. 授業への積極的参加 (授業態度、発言)	30%								
2. 課題レポート・発表	30%								
3. 期末試験	40%								
12. 受講生への メッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 一方的な講義でなく、随所で発言を求め、ディスカッションをたくさん行います。 2. レポートは、簡潔かつ要点を掘り下げたものを求めます。 3. 解りやすい口頭発表の仕方を覚えてください。 								

	<p>4. 疑問点は後に残さず、講義時間内および直後に質問してください（研究室への来訪は大歓迎）。</p> <p>5. 予習・復習を十分行ってください。</p> <p>6. 関連図書をたくさん読んでください。</p> <p>7. マスメディアの医療・健康関連情報を随時紹介しますが、皆さんも関心を持ってチェックしてください。</p> <p>8. 授業時間の開始は厳守します。</p> <p>9. 授業時間中に携帯電話・スマートフォンを使用することは禁止します。</p>		
13. オフィスアワー	別途連絡する		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	イントロダクション： 薬の効果発現（用量－効果相関、吸収・分布・代謝・排泄、効果器と受容体）	事前学習	「薬理学概説」用の学習ノートを準備し、授業に臨む意識を高める。pp.16-63 を読み、薬の効果発現についての概略を調べておく。注：新教科書準拠
		事後学習	薬物の使用目的、効果発現の基本原則をまとめる。
第2回	「抗感染症薬（抗菌薬、抗ウイルス薬、抗真菌薬）」	事前学習	pp.68-101 を読み、病原体の種類を理解する。
		事後学習	抗生物質、合成抗菌薬、抗ウイルス薬、抗真菌薬の作用機序・範囲と副作用についてまとめる。
第3回	「消毒薬」	事前学習	pp.306-312 を読み、消毒薬の種類を把握しておく。
		事後学習	各種病原体に有効な消毒薬についてまとめる。
第4回	「呼吸器系に作用する薬物（気管支拡張薬、鎮咳薬、呼吸促進薬）」	事前学習	pp.240-244 を読み、喘息の原因と症状を理解する。
		事後学習	呼吸器系疾患、特に気管支喘息に有効な薬剤と、その副作用についてまとめる。
第5回	「麻薬性鎮痛薬（解熱鎮痛薬、片頭痛治療薬等）」	事前学習	pp.189-194 を読み、痛みの発現機序について理解する。
		事後学習	痛みの緩和に有効な薬剤の作用機序をまとめる。
第6回	「抗ヒスタミン薬と抗炎症薬（ステロイド性抗炎症薬、非ステロイド性抗炎症薬）」	事前学習	pp.130-144 を読み、アレルギー反応の発現機序を理解する。
		事後学習	アレルギー反応の予防・緩和薬の作用機序、副作用をまとめる。
第7回	保健室にある薬（薬理作用と使用上の注意点）	事前学習	第1回～第6回の授業内容を復習する。
		事後学習	保健室にある代表的な薬剤と、その使用目的について、またディスカッションした内容についてまとめる。まとめをレポート提出する。
第8回	薬物依存・乱用（興奮系薬物・抑制系薬物・幻覚系薬物、危険ドラッグ） 【参考書】『No No Drugs! 心と身体と薬物乱用』	事前学習	【参考書】『No No Drugs! 心と身体と薬物乱用』pp.69-93 を調べておく。
		事後学習	薬物乱用の人体・社会に及ぼす悪影響について、自分の

	用』使用。		考えを含めてまとめたレポートを提出する。
第9回	「飲酒（アルコールパッチテストの実習あり）」	事前学習	【参考書】 pp.100-108 を読み、お酒の中のアルコール量を把握しておく。
		事後学習	脳機能に及ぼすアルコールの影響から、未成年者の飲酒の問題、成人に対する功罪をまとめる。
第10回	「喫煙（ニコチン）」	事前学習	【参考書】 pp.109-114 を読み、タバコ中やタバコ煙中の成分を把握しておく。
		事後学習	喫煙の急性・慢性の影響についてまとめる。
第11回	薬物乱用防止教育の実践	事前学習	薬物乱用防止教材の使用法をマスターする。
		事後学習	小学生・中学生を対象とした、薬物乱用防止教育の実践企画を作成する。
第12回	「喫茶（カフェイン・チョコレート）」	事前学習	【参考書】 pp.115-119 を読んで、茶・コーヒー中の成分を把握しておく。
		事後学習	喫茶の功罪、特に幼児や妊婦における影響についてまとめる。
第13回	「急性中毒に対する薬物（中毒と解毒処置）」	事前学習	教科書 pp.292-295 を読んで、中毒とはどういうことか理解する。
		事後学習	中毒に対する緊急処置（治療薬を含む）についてまとめる。
第14回	「漢方医学の基礎知識（サプリメント）」	事前学習	教科書 pp.298-304 を読んで、病態（証）と漢方薬の処方を理解する。
		事後学習	漢方薬を含めて、サプリメントの有効性の真偽を考察する。
第15回	まとめと総合討論	事前学習	事前提示された課題について考察し、まとめる。
		事後学習	課題について発表し、ディスカッションした内容についてまとめ、レポート提出する（期末試験に替える）。